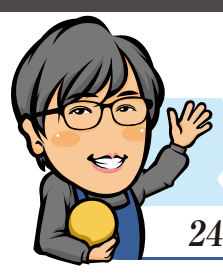

知って得する ボウリング用品の知識

佐藤秀樹プロが指南

24. レーン素材の違いについて

佐藤秀樹（さとう・ひでき）／1982年8月22日生まれ、山梨県出身。2007年プロ入り（46期／ライセンスNo1137）。172cm68kg。プロショップVEGA所属（プロショップ直販部マネージャー）／JPBA公認C級インストラクター、JBC公認ドリラー（シルバー）。

今回はレーン素材の違いと、それらの特徴についてお話ししたいと思います。

レーン素材は、大きく分けてウッド（木製）レーンと合成レーンのほか、ウッドにフィルムを貼っているものもあります。

かつてはウッドレーンが一般的でしたが、環境への影響もあり、現在ではあまり見られません。湿気や温度の変化に影響を受けやすく、変形しやすく、メンテナンスが難しいため、合成素材に比べて使用割合が低くなってきています。一方合成レーンは、メンテナンスが簡単で、研磨が少なくてすむことや、耐久性が高いため、今では主流となっています。

ボウラーの視点から考えると、レーン素材によりオイルの変化に大きな違いが感じられます。オイルの種類によっても違いが出ますが、今回は同じオイルを使っている場合に焦点を当てていきましょう。

▲現在は主流となっている合成レーン

レーン素材によるいちばんの違いは、板の硬さです。ウッドレーンの方が合成レーンに比べて柔らかいため、摩擦力が強くなります。摩擦力が強くなるということは、それだけ曲がりが大きく出やすい（もしくは手前から曲がりやすい）ということです。オイルパターンが公表されているボウリング場で、同じ42フィートのパターンでも曲がりに違いが出るのは、こうした板の硬さが大きく影響しています。

例えば、摩擦が強いカバーストックのボール（ソリッド素材等）を摩擦力があるウッドレーンで使用すると、手前から曲がり始めてしまうため、いつものラインではポケットに収まらず、裏まで曲がってしまうことがあります。

上手にアジャストしたようにみえても、ロールアウトした状態でポケットヒットしていたら、ストライクが続きません。とくにスピードのないボウラーは、ウッドレーンでは摩擦力の弱い、パール系のボールを選択するなどして対応しましょう。

棚橋孝太プロのプロショップ探訪

普段からのコミュニケーションを大切に

㉔ときわ平ボウリングセンター プロショップ（千葉県松戸市）

暖かい日が続いたと思えばまた寒くなったりと、体調の管理が難しい時期ですね。

さて今月紹介するショップは、千葉県にあるときわ平ボウリングセンターのショップです。新京成線の常盤平駅から徒歩1分という好立地にある同センターは、昨年で開場50周年を迎えた老舗のボウリング場です。

長年プロショップを担当されていた前任者が引退され、2023年8月15日から、JBC公認ドリラーの資格を持つ林大介さんが担当されています。ドリル歴は10年以上で、以前はフロント業務の傍ら、前任者に技術や知識を学びながら、昨年プロショップを引き継ぎました。

林さんは、お客様の要望を聞くのはもちろんですが、その中でもアドバイスや提案をさせていただき、十分な理解を得られてからドリル、用品の販売をしているそうです。

「ボウリングを生涯スポーツとして楽しんでもらうために、指の痛みやけがのないように、丁寧なドリル、親切なアフターフォローを心がけています。お客様が要望を言いやすいように、お客様と仲良くなることが必要だと思い、ボウリングの話だけではなく、世間話も混ぜながらコミュニケーションを大事にしています」と林さん。それによって、ドリルやボウリングの悩みを、気軽に相談してもらえる雰囲気づくりをしています。

プロショップのディスプレーは、選ぶ楽しみが感じられるように品ぞろえを豊富に、そしてお買い求めしやすい価格設定を意識しています。

現在リーグなどは投げていませんが、週に1回は練習もしているそうです。

「自分が投げることでボウラーの気持ちがわかるし、自分がお客様だったらと常に考えながら、接客をさせていただいています」

地域密着型のときわ平ボウリングセンターのプロショップですが、お近くにお越しの際はのぞいてみてはいかがでしょうか。林さんが優しく対応してくださいますよ。

▲見やすくディスプレーされたプロショップ

▲ボールやシューズをはじめ、充実した品ぞろえ

▲「お客様とのコミュニケーションを大切にしています」とプロショップを切り盛りする林さん

棚橋孝太（たなはし・こうた）／1982年1月19日生まれ、高知県出身。2007年プロ入り（46期／ライセンスNo1145）。168cm72kg、右投げ。優勝1回。JOC強化スタッフ・日本スポーツ協会公認指導員・USBCシルバーコーチ・JBC公認ドリラー

WORLD TOPICS Vol.12 2024年は国際大会が目白押し

report 山下 知且

JBCの全日本ナショナルチーム・ユースナショナルチームが、国を代表して公式国際大会に派遣される機会が以前より少なくなったのは、コロナ禍や国からの助成金の減少、円安や航空券の値上がり、物価の上昇などが影響していると思います。

ボウリングの国家代表を取り巻く環境は、各国それぞれで異なります。国際総合競技大会でメダルが取れる競技が少ない国は、ボウリングに手厚い助成をすることが多く、逆に日本のようにメダルを取れる競技が多いと、いわゆる「非オリンピック競技」には、あまり予算はつきません。

▲2014年に韓国・仁川で行われたアジア競技大会の開会式の模様

私がまだナショナルチームの選手だったころ、オリンピック競技の日本代表であった友人から、公式国際大会に派遣されるのに、費用のほぼすべてを自己負担しなければならない、という話を聞いたことがありました。後に仕事などで他のさまざまな競技の内情を知り、JBCは自前の予算を使って選手強化、海外派遣を頑張ってきたのだな、と思うようになりました。

さて、2024年は公式国際大会が目白押しです。1月には2024ユースW杯がペルーで開催されました（日本は未派遣）。

◎6月・第23回アジアジュニア選手権大会（マレーシア）
◎7月・IBF世界ユース選手権大会（韓国）
◎9月・第27回アジア選手権大会（タイ）
◎10月・第17回アジアシニア選手権大会（シンガポール）
◎11月・日本オリンピック委員会から派遣される第6回アジアインドア&マーシャルアーツゲームズ（タイ）

▲アジアインドア＆マーシャルアーツゲームズのマーク。同大会は、ボウリングなどの屋内競技のほか、チェスや囲碁などの頭脳スポーツも行われる総合競技大会

などが予定されています。ちなみに第6回アジアインドア&マーシャルアーツゲームズは、本来2021年に行われる予定が延期になり、本年の開催になりました。

昨年夏にシンガポールで開催された第22回アジアジュニア選手権大会で、大活躍をしてくれた全日本ユースナショナルチームは、記憶に新しいところですが、日本代表の選手たちが今年も世界で大暴れしてくれることを期待しています。

やました・ともかつ
1982年12月5日生まれ、長崎県出身。2000年～2011年ナショナルチーム在籍。2023年6月から長崎県スポーツ協会理事。全日本ボウリング協会理事。2023年4月から長崎県連副理事長。2022年からIBFアスリート委員。